

順位	氏名（議席）	発言の要旨
9	佐野 智昭（18）	1. 松枯れ被害の撲滅に向けて 松枯れ被害は、市当局の継続的な対策によって減少傾向にありますが、残念ながら依然として被害が続いています。 私は、令和4年2月定例会でもこの問題を取り上げ、マツノマダラカミキリが活動する春から夏にかけて、全ての被害木を確実に伐倒破碎処理することを求めました。 しかし、今年も5月と6月に、処理されずに放置された被害木が散見され、その周辺で被害が拡大している状況を確認しています。この現状は、これまでの対策に何らかの課題があることを示唆しているのではないのでしょうか。現状を踏まえ、以下質問します。 (1) 今年5月、6月の被害木伐倒破碎処理において、なぜ伐採されずに残された被害木があったのか、その理由を伺います。 (2) 被害木を残すことなく確実に伐採するための方策について、市はどのように検討しているか伺います。 (3) 松枯れの兆候を確認するヤニ打ち調査は、毎年どの程度の規模で実施し、調査によって潜在感染木と判定された事例はあったか伺います。 (4) 被害が拡大しているエリアに絞り、ヤニ打ち調査を重点的に実施し、潜在感染木を速やかに処理すべきと考えますが、市の見解を伺います。 2. 使えるまちづくり行動計画の策定に向けて 市ウェブサイトでは、まちづくり行動計画を「地区の皆さんが地区の目指すべき将来像を共有し、計画期間内に将来像の実現に向けてまちづくり協議会ができることを示し、地区が一体となった継続的なまちづくり活動を進めていくための道しるべ」と位置づけています。 現行のまちづくり行動計画（以下、「現行計画」という。）は令和8年度に計画期間満了となるため、第六次富士市総合計画後期計画の策定と合わせて、令和13年度を目標年度とする第3次まちづくり行動計画（以下、「新計画」という。）の策定が進められます。 今年6月から7月にかけて行われた、まちづくり協議会部会長交流会では、第3次まちづくり行動計画づくりについて（骨子案）が提示され、計画の位置づけや役割、バックキャスティング方式による策定の考え方などが示されました。 現行計画の課題を踏まえ、新計画の策定について、以下質問します。 (1) 現行計画は、地区のまちづくり活動を十分に促進する道しるべとして機能しているとお考えでしょうか。もし、十分でないとするば、その理由を市としてどのように分析しているのか伺います。 (2) まちづくり行動計画という名称についてですが、行動という言葉は短期的なアクションに主眼を置いているように感じられます。一方で、実際の計画は中期的な活動を包含する内容であり、計画の性格と合致するまちづくり活動計画といった名称のほうがふさわしいのではないのでしょうか。名称変更の必要性について、市の見解を伺います。 (3) 新計画は、現行計画と同様に、まちづくり協議会が中心となって活動を進める計画という位置づけになるのか、それとも、地区の幅広い関係者や市民も主体となるような、より広範な計画という位置づけになるのか伺います。 (4) 比較的短い5年間を対象とする計画の策定に、あえてバックキャスティ

順位	氏名（議席）	発言の要旨
9	佐野 智昭（18）	ング方式を導入する意図について伺います。 （5）新計画の策定に当たり、各地区で4回のワークショップを実施すると伺っています。バックキャスト方式を採用する上で、具体的にどのような特徴を持つワークショップを計画しているか伺います。 （6）各地区にはそれぞれ特性があり、まちづくりの体制や抱える課題も異なります。新計画の策定に当たっては、形式的な統一フォーマットに縛られるべきではないと考えますが、各地区の独自性を尊重し、使われる計画となるよう、策定方式や内容の自由度を確保することについて、市はどのようにお考えか伺います。